文学・哲学・言語

key word

- 上代日本文学
- 和歌
- 歌謡
- 『万葉集』
- 『古事記』

井ノ口　史
Fumi Inoguchi

教育学部
教授

【プロフィール】
●専門分野
日本上代文学

●略歴
・2000 年 3 月
奈良女子大学大学院
博士課程修了（博士〈文学〉）
・2000 年 4 月-2013 年 3 月
佛教大学非常勤講師
・2013 年 4 月-2015 年 3 月
高岡市万葉歴史館研究員
・2015 年 4 月
滋賀大学教育学部准教授
・2020 年 4 月
滋賀大学教育学部教授

【主な社会的活動】
●所属学会
・萬葉学会
・上代文学会（理事）
・美夫君志会（常任理事）

【代表的な研究テーマ】

□ 上代日本文学における韻文の特質究明

課題解決に役立つシーズの説明

日本上代（飛鳥～奈良時代）の韻文の特質を究明することを研究の目的として、これまで、『古事記』に収録された歌謡と、歌集である『万葉集』に収録された大伴坂上郎女の作、及び作者未詳の長歌などを対象とした研究を続けてきました。いずれも平仮名誕生以前の作品で、やまとことばによる歌を漢字で表記するために種々の工夫が見られます。日本文学の淵源であるこれらの作品を対象として言語表現の展開をたどることは、日本の文化を特色づける和歌史研究の基盤となります。

西暦712年に成立した『古事記』には、神話が記されていることが広く知られていますが、訓字主体で表記された物語的部分の他に、万葉仮名を用い一字一音で表記された歌謡も収録されています。散文による事柄の叙述とは異なる役割を、歌謡という韻文が担い得たと判断されます。

一方、『万葉集』の場合は、時代による歌風の変遷や個々の作者の特色が看取されます。奈良時代の半ば頃、名門貴族大伴氏の女性として多くの歌を残した大伴坂上郎女は、恋や四季といった題材の他に、他の女性歌人には見られない主題を詠んでいます。これまで、『万葉集』の長歌に関する研究は、柿本人麻呂や山上憶良、山部赤人、家持といった男性歌人中心に構成されてきましたが、坂上郎女の研究を通して女性による創造という新たな側面を加えると共に、坂上郎女から家持へ継承される歌学びの貴重な例として検証することが求められます。

和歌の魅力の一つとして、歴史の中に生きた人々が見た風景を想像する手がかりになるという点を挙げることができます。滋賀県（近江国）は、『万葉集』の他、平安時代以降の歌集においても多くの名歌に登場します。こうした土地と和歌の関わりにも今後注目していきたいと考えています。

また、近世の国学者が古代の文献をどのように読解したのか、といった点にも興味を持っています。「滋賀大学教育学部紀要」（73 号。2024 年 2 月刊行）に掲載された拙稿「長野義言の『市辺皇子山陵考』と長尾名鳥による「追考」について」では、滋賀県東近江市に現存する江戸時代に建立された石碑や現「市辺押磐皇子陵」に関連する事項が記された長野義言による著作（「市辺皇子山陵考」）を調査し、考察しています。

（画像）
「市辺忍歯別命山陵」石碑（東近江市妙法寺町）

企業・自治体へのメッセージ

滋賀県には、和歌の歌枕となった地名が多く残されています。それぞれの土地に縁のある和歌を学ぶ機運を高め、故郷の風土や歴史への理解を深めることのできるような方法を模索しています。

また、郷土の史蹟と国学者による著作の関連性について考察したいと考えています。